

電子処方箋導入・利用メリットについて、 診療科別に医師・歯科医師の声を紹介します！

電子処方箋は、約1ヶ月以内に他の医療機関で処方された薬剤の情報までわかること、システム上での重複投薬や併用禁忌のチェックが可能になることで、医療安全の確保、医療の質の向上に貢献します。

服用中の薬の処方元

内科 × 心療内科

ゾルピデムなどの処方を希望されて来院した患者さんです。

薬剤情報を確認したところ、同月既に複数の医療機関で同様の投薬日数制限のある薬を処方されていたことが判明しました。

問診だけでは分からなかった重複投薬を防ぐことができました。



内科

服用中の薬の処方元

内科 × 眼科

内視鏡の際に抗コリン薬を投薬するかどうかの判断時、緑内障の薬を服用しているか確認できます。



内科

内科で電子処方箋を導入いただくことで、他の診療科や薬局から、
「診察の役に立つ」「重複投薬等を抑制できた」などの声をいただいています！

処方元

心臓外科 × 内科

アムロジピンベシル酸塩を処方しようとしたところ、電子処方箋の重複投薬等チェックにより重複投薬が検知されました。

お薬手帳にアムロジピンベシル酸塩の記載はありませんでしたが、

患者が普段通院している医療機関に問い合わせたところ、処方されていることが確認できました。

普段通院している医療機関と投与量に関する調整を行った上で、最適な投与量とすることができました。



心臓外科

電子処方箋導入・利用メリットについて、診療科別に医師の声を紹介します！

電子処方箋は、約1ヶ月以内に他の医療機関で処方された薬剤の情報までわかること、システム上での重複投薬や併用禁忌のチェックが可能になることで、医療安全の確保、医療の質の向上に貢献します。

処方元

耳鼻咽喉科 × 内科

咽頭痛・痰・咳症状の患者さんにトラネキサム酸、カルボシステインを処方しようとしたところ、電子処方箋の重複投薬等チェックにより、同じ症状で他の医療機関も受診しており、既に同様の薬が処方されていることが判明しました。



耳鼻咽喉科

処方元

耳鼻咽喉科 × 内科・小児科

耳鼻咽喉科では、抗ヒスタミン剤が重複投薬になることが多いです。

皮膚科から湿疹に対する数十日分の抗ヒスタミン治療薬等が処方された患者さんが鼻水の症状で来院した場合や、小児科で風邪の対処療法薬や喘息の予防薬を処方されている患者さんが耳が痛いなどの理由で来院した場合、電子処方箋で直近の情報を確認することで、重複なく処方することができます。



耳鼻咽喉科

電子処方箋導入・利用メリットについて、 診療科別に医師・歯科医師の声を紹介します！

電子処方箋は、約1ヶ月以内に他の医療機関で処方された薬剤の情報までわかること、システム上での重複投薬や併用禁忌のチェックが可能になることで、医療安全の確保、医療の質の向上に貢献します。

処方元

眼科 × 内科

降圧薬や糖尿病薬を服用している場合は、眼底を詳しく診ることに繋がります。

また、緑内障のβ遮断薬がまれに全身の血圧に作用しうるため、降圧薬を服用している患者さんには処方を注意することができます。



眼科

処方元

歯科 × 内科・整形外科

他の医療機関で既に同じ抗生剤が投与されていたことが判明し、投薬を中止しました。

また、抜歯などの処置を行う際に、顎骨壊死、炎症悪化、出血が止まらなくなる恐れがないか、骨粗鬆症薬や抗血栓薬を服用していないか、薬剤情報から直近の情報を確認できて便利です。



歯科

電子処方箋導入・利用メリットについて、診療科別に医師の声を紹介します！

電子処方箋は、約1ヶ月以内に他の医療機関で処方された薬剤の情報までわかること、システム上での重複投薬や併用禁忌のチェックが可能になることで、医療安全の確保、医療の質の向上に貢献します。

処方元

服用中の薬の処方元

整形外科 × 内科

整形外科から、解熱鎮痛剤としてロキソプロフェン錠60mg、その副作用の胃腸障害の予防のために胃酸分泌抑制薬のランソプラゾール口腔内崩壊錠15mgと一緒に処方された患者さんです。

薬剤情報を確認すると、他の医療機関(内科)でもラベプラゾール錠が処方されていることがわかりました。整形外科の処方医に疑義照会を行い、整形外科から処方されたランソプラゾール口腔内崩壊錠の処方 は削除となり、重複投薬を防ぐことができました。



薬剤師

処方元

服用中の薬の処方元

耳鼻咽喉科 × 内科(心療内科)

耳鼻咽喉科からクラリスロマイシン錠200mgが処方された患者さんです。

薬局の新患アンケートでは、睡眠薬のゾピクロンを服用していると記載されていました。

薬剤情報を確認すると、クラリスロマイシンと併用注意であるレンボレキサントが処方されていることがわかりました。

患者さんにレンボレキサントの外観を見せて確認したところ、新患アンケートの記載は誤りで、実際にはレンボレキサントを服用していることが判明しました。

耳鼻咽喉科の処方医に疑義照会を行い、クラリスロマイシン錠200mgから、セフカペンピボキシル塩酸塩錠100mgに処方が変更となりました。併用による血中濃度の上昇による傾眠等の副作用の増強を回避することができました。



薬剤師

電子処方箋導入・利用メリットについて、診療科別に医師の声を紹介します！

電子処方箋は、約1ヶ月以内に他の医療機関で処方された薬剤の情報までわかること、システム上での重複投薬や併用禁忌のチェックが可能になることで、医療安全の確保、医療の質の向上に貢献します。

神経内科で電子処方箋を導入いただくことで、他の診療科や薬局から、「診察の役に立つ」「重複投薬等を抑制できた」などの声をいただいています！

処方元

整形外科 × 神経内科

整形外科で、慢性疼痛の治療でトラマドール塩酸塩を処方しようとしたところ、電子処方箋の重複投薬等チェックにより併用禁忌が検知されました。パーキンソン病の治療のために、他の医療機関(神経内科)でセレギリン塩酸塩が処方されていることが判明しました。そのため、セレギリン塩酸塩と併用禁忌ではないアセトアミノフェンに処方を変更し、併用禁忌を防ぐことができました。



整形外科

電子処方箋導入・利用メリットについて、診療科別に医師の声を紹介します！

電子処方箋は、約1ヶ月以内に他の医療機関で処方された薬剤の情報までわかること、システム上での重複投薬や併用禁忌のチェックが可能になることで、医療安全の確保、医療の質の向上に貢献します。

服用中の薬の処方元

整形外科 × 神経内科

慢性疼痛の治療で**トラマドール塩酸塩**を処方しようとしたところ、電子処方箋の重複投薬等チェックにより併用禁忌が検知されました。パーキンソン病の治療のために、他の医療機関で**セレギリン塩酸塩**が処方されていることが判明しました。そのため、セレギリン塩酸塩と併用禁忌ではない**アセトアミノフェン**に処方を変更し、併用禁忌を防ぐことができました。



整形外科

整形外科で電子処方箋を導入いただくことで、他の診療科や薬局から、「診察の役に立つ」「重複投薬等を抑制できた」などの声をいただいています！

処方元

乳腺外科 × 整形外科

薬剤情報を確認したところ、乳がんの治療で**アロマターゼ阻害薬**を使用している患者さんが、閉経後の骨粗鬆症を防止するために**ラロキシフェン**を整形外科から処方されていることがわかりました。併用により、有害事象の増加及び乳がん再発抑制効果を阻害する可能性が臨床試験により確認されているため、患者さんには、整形外科で骨粗鬆症薬を変えてもらうように伝えました。



乳腺外科

処方元

皮膚科 × 整形外科

接触皮膚炎の症状で来院された患者さんの薬剤情報を確認すると、整形外科で**ケトプロフェン貼付剤**が処方されているということがよくあります。原因がわかるので助かります。



皮膚科

電子処方箋導入・利用メリットについて、診療科別に医師の声を紹介します！

電子処方箋は、約1ヶ月以内に他の医療機関で処方された薬剤の情報までわかること、システム上での重複投薬や併用禁忌のチェックが可能になることで、医療安全の確保、医療の質の向上に貢献します。

服用中の薬の処方元

心臓外科 × 内科

アムロジピンベシル酸塩を処方しようとしたところ、電子処方箋の重複投薬等チェックにより重複投薬が検知されました。

お薬手帳にアムロジピンベシル酸塩の記載はありませんでしたが、患者が普段通院している医療機関に問い合わせたところ、処方されていることが確認できました。

患者さんの現在の血圧等を鑑み、追加的な降圧作用を得るため、普段通院している医療機関と投与量に関する調整を行った上でアムロジピンベシル酸塩を処方しました。過剰投与を防止し、最適な投与量とすることができました。



心臓外科

電子処方箋導入・利用メリットについて、診療科別に医師の声を紹介します！

電子処方箋は、約1ヶ月以内に他の医療機関で処方された薬剤の情報までわかること、システム上での重複投薬や併用禁忌のチェックが可能になることで、医療安全の確保、医療の質の向上に貢献します。

服用中の薬の処方元

乳腺外科 × 整形外科

薬剤を処方する殆どが乳がん術後の患者さんです。癌の治療において化学療法のレジメンを活用する場合には、休薬期間や制吐剤投与等をはさんで長期の投与スケジュールとなることもあり、投与も複雑になります。がん治療以外の薬剤の投与に気を遣う必要もあるため、電子処方箋のメリット受けやすいと思います。

乳がんの治療でアロマターゼ阻害薬を使用していた患者さんが、閉経後の骨粗鬆症を防止するためにラロキシフェンを整形外科から処方されていることが薬剤情報から判明しました。併用により、有害事象の増加と乳がん再発抑制効果を阻害する可能性が臨床試験により確認されているため、患者さんには、整形外科で骨粗鬆症薬を変えてもらうように伝えました。

電子署名により薬剤師の責任がより明確化されると感じており、乳がんの患者さんにも安心して院外処方ができています。



乳腺外科

電子処方箋導入・利用メリットについて、診療科別に医師の声を紹介します！

電子処方箋は、約1ヶ月以内に他の医療機関で処方された薬剤の情報までわかること、システム上での重複投薬や併用禁忌のチェックが可能になることで、医療安全の確保、医療の質の向上に貢献します。

服用中の薬の処方元

耳鼻咽喉科 × 内科

咽頭痛・痰・咳症状の患者さんにトラネキサム酸、カルボシステインを処方しようとしたところ、電子処方箋の重複投薬等チェックにより、同じ症状で他の医療機関も受診しており、既に同様の薬が処方されていることが判明しました。



耳鼻咽喉科

服用中の薬の処方元

耳鼻咽喉科 × 内科・小児科

抗ヒスタミン剤が重複投薬になることが多いです。

皮膚科から湿疹に対する数十日分の抗ヒスタミン治療薬等が処方された患者さんが、鼻水の症状で来院した場合や、小児科で風邪の対処療法薬や喘息の予防薬を処方されている患者さんが、耳が痛いなどの理由で来院した場合も、電子処方箋で直近の情報を確認することで、重複なく処方することができます。



耳鼻咽喉科

電子処方箋導入・利用メリットについて、診療科別に医師の声を紹介します！

電子処方箋は、約1ヶ月以内に他の医療機関で処方された薬剤の情報までわかること、システム上での重複投薬や併用禁忌のチェックが可能になることで、医療安全の確保、医療の質の向上に貢献します。

耳鼻咽喉科で電子処方箋を導入いただくことで、他の診療科や薬局から、「診察の役に立つ」「重複投薬等を抑制できた」などの声をいただいています！

処方元

服用中の薬の処方元

耳鼻咽喉科 × 耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科からアレルギー性鼻炎治療薬のモンテルカストナトリウムとモメタゾンフランカルボン酸エステル水和物点鼻液を処方された患者さんです。

薬剤情報を確認すると、服用中の薬が10種類あり、抗アレルギー薬として、モンテルカストナトリウムと同効薬である「プラナルカスト水和物」と、「エピナスチン塩酸塩」を内服していることがわかりました。

しかし、患者さんはエピナスチン塩酸塩のみをアレルギー薬と認識していたため、診察時、医師に、同効薬である「プラナルカスト水和物」を服用中であることを伝えていなかったことがわかりました。

耳鼻咽喉科の処方医に疑義照会を行い、モンテルカストナトリウムの処方は削除となり、重複投薬を防ぐことができました。



薬剤師

電子処方箋導入・利用メリットについて、診療科別に医師の声を紹介します！

電子処方箋は、約1ヶ月以内に他の医療機関で処方された薬剤の情報までわかること、システム上での重複投薬や併用禁忌のチェックが可能になることで、医療安全の確保、医療の質の向上に貢献します。

服用中の薬の処方元

皮膚科 × 整形外科

接触皮膚炎の症状で来院された患者さんの薬剤情報を確認すると、整形外科でケトプロフェン貼付剤が処方されているということがよくあります。原因がわかるので助かります。



皮膚科

皮膚科で電子処方箋を導入いただくことで、他の診療科や薬局から、「診察の役に立つ」「重複投薬等を抑制できた」などの声をいただいています！

処方元

耳鼻咽喉科科 × 皮膚科

耳鼻咽喉科では、皮膚科から湿疹に対する数十日分の抗ヒスタミン治療薬等が処方された患者さんが、鼻水の症状で来院した場合電子処方箋で直近の情報を確認することで、重複なく処方することができます。



耳鼻咽喉科

電子処方箋導入・利用メリットについて、診療科別に医師の声を紹介します！

電子処方箋は、約1ヶ月以内に他の医療機関で処方された薬剤の情報までわかること、システム上での重複投薬や併用禁忌のチェックが可能になることで、医療安全の確保、医療の質の向上に貢献します。

服用中の薬の処方元

眼科 × 内科

診察時には薬剤情報、診療情報(手術情報)を必ず確認するようにしています。

降圧薬や糖尿病薬を服用している場合は、眼底を詳しく診ることに繋がります。

また、緑内障のβ遮断薬がまれに全身の血圧に作用しうるため、降圧薬を服用している患者さんには処方方を注意することができます。



眼科

眼科で電子処方箋を導入いただくことで、他の診療科や薬局から、「診察の役に立つ」「重複投薬等を抑制できた」などの声をいただいています！

処方元

服用中の薬の処方元

内科(心療内科) × 眼科

不眠症治療薬のゾルピデム酒石酸塩が処方された患者さんです。

薬剤情報を確認したところ、他の医療機関(眼科)から緑内障治療薬のラタノプロストとリパスジル塩酸塩水和物が処方されていることがわかりました。

ゾルピデム酒石酸塩は急性閉塞隅角緑内障患者には禁忌とされているため、内科の処方医に疑義照会を行った結果、ゾルピデム酒石酸塩の処方方は削除となり、薬剤禁忌のおそれを防ぐことができました。



薬剤師